



まつざき真琴

県議会ニュース

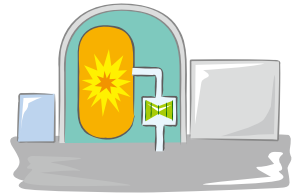
日本共産党
鹿児島県議会ニュース
2012年7月号
6月議会特集

発行/日本共産党鹿児島県議団 〒890-8577 鹿児島市鴨池新町10番1号 TEL/FAX:286-3977
E-mail:kengidan@jcp-kagoshima.com ホームページ <http://jcp-kagoshima.com> (右QRコード)
ブログ『まこっちゃんのいっぺこっぺ奮闘記』 <http://matsuzakimakoto.synapse-blog.jp/>



原子力安全対策特別委員会

大飯原発の再稼働 政府の『新基準』どう評価するか?



7月1日野田首相は、多くの国民の反対の声を断ち切って、大飯原発3号機を再稼働しました。まつざき真琴県議は、大飯原発の再稼働の問題について、政府が、新しい安全基準を示し、野田首相が、安全は「私が保証する」と言って、再稼働の同意を地元へ迫った(当時)問題について、取り上げました。

「伊藤知事は、川内原発の再稼働については『国が安全を十分に保証』するのが前提であると言われていたが、この『基準』が国の大飯原発に対する『保証』である。これをどう評価されるのか」と質問しました。これに対して、県は「国においては、専門的知見を結集してつくられており、十分なものと考えられる」という答弁でした。

まつざき県議は、「この新しい基準のなかの30項目は、計画だけ作ればいいことになっている。これで、安全が保証されたと言えるのか、これは、『新しい安全神話』だ」と、問題点を指摘し、「3. 11前には、県も国と一緒にあって、『安全神話』をふりまいてきた。川内原発の再稼働にあたっての判断では、同じように国と一緒にあって『安全神話』をふりまくことはやめるべき。」と迫りました。

その他、川内原発の周辺自治体から出されている要望である「安全協定」についても、県が積極的に関わり、九州電力に締結を要請すべき、と強く要望しました。



「今夏の電力供給対策における 節電の取り組み宣言決議案」 6月18日(本会議) についての見解

県議会では、6月18日の最終本会議で、「今夏の電力供給対策における節電の取り組み宣言決議案」が提案されました。この採決にあたって、まつざき県議は、「棄権」をしました。その理由を次のように語りました。

この「決議案」には、九州電力「10%以上の節電協力をもとめている」という表現がありますが、これは、一昨年の夏と比較しての数字です。一昨年というのは、昨年の3. 11前で、電力会社は「オール電化」キャンペーンをはって、「電気を使え、使え」と大宣伝していた頃です。

3. 11後は、みんなの節電の意識が高まり、昨年夏は、一昨年夏と比較すると平均で7%も節電をしていたのです。それからすると、平均で、あと3%節電すれば済む話です。私は、「10%の節電が必要」ということばのウラに、原発が全て止まっている状況下で、「電気がこんなに足りないんだ。」と大宣伝をして、原発の再稼働にもっていきたいという電力会社の意図を感じるのです。もちろん、節電には大賛成です。生活のあり方を見直すことも必要だと思います。私自身も、こまめに電気を切るよう心がけています。

でも、県議会が、このような「決議」を上げる必要があるでしょうか。県議会がなすべきことは、電力会社に「電力供給の義務を果たせ」、国に「責任を持って対策を講じよ」と迫ることではないでしょうか。

私は、今回、この「決議」の採決にあたって、以上の理由で、「棄権」(退席)しました。

6月議会が終わりましたが、今回ながら、一般質問ができていない議会でした。原子力安全対策等特別委員会での質問などを紹介します。
ご意見やご要望をお寄せください。

5月17・18日(北薩地区) 企画建設委員会行政視察



川内港、米之津川、出水麓武家屋敷を視察。写真は、おれんじ鉄道に乗車した後、肥薩おれんじ鉄道株式会社の古木社長と振興策について意見交換しました。